

建築本部

第一部長

軍

陸海軍第十三師團

軍務局長

第二課長

局長

局長

局長

軍務局長

第三水雷戦隊司令官官宛

電報

五月二十一日 起案
午後九時十分 發電済

建築材料の六月下旬中樽三多摩丸二格
載り予定、今後在件、直接横須賀鎮守
府ト交渉せむシ

予年別々未着仕付建築本部
急基合字方申上

0602

紙 信 着 報

電 報

局 着		局		發		名 氏 所 居 人 信 受	
取 扱 者	受 信	付 午 後	付 午 前	第 七 〇	第 七 〇	官 報	第二課長
中	中	一	一	五 月 九 日	五 月 九 日		中
		時 分	時 分	日	日		
多摩九八建築材料搭載ノ為 何日何ト向ケ歸還セシムルキヤ 三月三日 第三水雷戦隊司令官 軍務局長宛						指 定 事 記 三 ス レ	
番 着 信 號				數 紙		名 氏 所 居 人 信 發	
二				四		三	
				八		ス	
				號		レ	
印 附 日 信 着						10. 着 封 封	
						軍務局長宛	

後 案 起

0603

海軍省副官



海軍

第五十卷

軍務局長



第二課長



局長



大正十年五月二十六日 省副官

第三水雷戦隊司令部宛

持設運送船行動ノ関係件

貴隊中持設運送船ニ于テ内地北樺太間輸送

任務ノ從事セラルルニ際ニ予メ行動日程ヲ指

示シ得ルモノハ場合ニ可成至急申該運送船

ノ行動ヲ決定御通知ヲ得度

右照會

但テ行動ノ是ニ關連シテ其地ノ關係上海軍省後ニ掲載スル

官房第一九五八號

五月廿六日起 案
五月廿六日 發付 齊藤



船附
船上

0604

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

此書有之此其後

終

海 軍
 機密中後十三行原紙

0605

六月九日
 内閣
 外務省

大正十年 六月 八日

横須賀鎮守府司令長官 山屋 他

海軍大臣 野村 加茂 友三 郎 殿

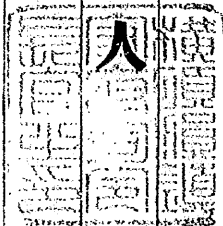
第一課

特設運送船大信丸第一回行動豫定一件
 特設運送船大信丸第一回行動ヲ左記ノ

通豫定致候
 右報 告 久

記

横濱	横濱	地 名	著	發
六月五日	六月五日			七日



軍務局長 印
 10. 六月九日

船 籍
 船 上

0606

コL
7

					小樽	キヤクル	キヤイホ	又イ	小樽	無
					三十日	三十一日	二十九日	三十日	三十一日	十日
						三十一日	二十九日	三十日	三十一日	十日

12

10
11

0607

軍務局
電 報 着 信 紙

局	着	局	發	名氏所居人信受								
取扱者	受付午後 時分	受付午前 時分	第一 第二課 日 號	<p style="font-size: 2em; text-align: center;">官報</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">名氏所居人信受</p>								
<p style="font-size: 2em;">四日所二當電一件一系ス</p> <p style="font-size: 2em;">六月一日 軍務局長</p> <p style="font-size: 2em;">ス</p> <p style="font-size: 2em;">おヒダグニハ</p> <p style="font-size: 2em;">リヨウセウ</p>				定指	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">番着信</td> <td style="width: 15%;">紙</td> <td style="width: 70%;">名氏所居人信受</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">一</td> <td style="text-align: center;">第 四 八 號</td> <td style="text-align: center;">三 ス レ</td> </tr> </table>		番着信	紙	名氏所居人信受	一	第 四 八 號	三 ス レ
番着信	紙	名氏所居人信受										
一	第 四 八 號	三 ス レ										
<p style="font-size: 2em;">軍務局長</p> <p style="font-size: 2em;">六月一日</p> <p style="font-size: 2em;">三三三</p> <p style="font-size: 2em;">三三三</p> <p style="font-size: 2em;">三三三</p>				事記	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">印附日信着</td> <td style="width: 85%;">軍務局接受</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10. 六月八日</td> <td></td> </tr> </table>		印附日信着	軍務局接受	10. 六月八日			
印附日信着	軍務局接受											
10. 六月八日												

0608

海軍 第百三十三行野紙

10.6.6

第一課長 持

局長 備 備 備 備 備

軍務局長

大正十年六月四日 軍務局長

第三水雷隊司令官 官宛

電報 (暗號)

六月四日 起案
六月四日 發電
六月四日 分發

地質調査班 六月十八日小樽出港予定ノマ
摩九便ニテ北樺太方面ニ赴クトシ今日迄ハ

集船セリルニツキ右輸送方可然取計ニ度

軍需局長

第二課 認

如件 取計ニ打合候
手前 局長 官宛

集

誠心 奉 呈

0610

船 0609
船 上

海軍省用紙

大正 国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

海軍

海軍省第十三行軍紙



務局長

六月四日起索

六月四日發電濟

擇出港予定ノ事

今自迄

然取計ニ度

127



誠心堂印

0610

船備上

0609

海軍省附用紙

大正十年七月三日

軍需局中

海軍省軍務局

北極右西海岸行地質調査班ノ
事件ニ適多摩丸ニ乗船セシム
可然以可計出ル事

三平



緊急

軍務局

軍務局

大正十年六月二日前

宗谷岬海軍司令部

(在尼港) 第三水雷戦隊司令官

軍令部長

多摩丸ハ六月七日小樽発ノ予定ヲ出奔

セリ續テ横須賀ハ急ニ必要アル付キ北樺太

地質調査班ハ成ル可ク七日迄小樽ヲ乘船

事ニ御取計ヲ得度

0611

軍務局

第三水雷戦隊日令第四〇號

大正十年五月二十二日

泥港旗艦平戸

第二課 第三水雷戦隊司令官大谷幸四郎

第一課

特設運送船

多摩丸

及福勢丸

自五月下旬至七月上旬

行動豫定別紙ノ通定ハ

(終)

軍務局 第10. 頁三

0613

船艦上

0612

運付ノ日令第四〇
引換候宜様

日令第四〇號

五月二十二日

旗艦平戸

三水雷戰隊司令官大谷幸四郎

多摩丸及福勢丸
自五月上旬至七月上旬

紙ノ通定ハ

(終)

軍政局發
第10,612號

船信上

0613

0612

業と送付ノ日令第四〇號
本紙ト引換便宜燒却
利加

第三水雷戦隊日令第四・號別紙

特設運送船多摩丸福勢丸行動豫定表

特 令 ス	福勢丸		摩丸				多		船名	
	重港		小樽		重港		泥港		地名	
	發	着	發	着	發	着	發	着	發	着
	五 二九	五 二九	五 二七	五 二四	五 二二	五 二二	五 二二		月 日	第一回便
	六 九	六 九	六 七	六 四	六 二	六 二	六 一	五 三〇	全 上	第二回便
	六 〇	六 〇	六 八	六 五	六 三	六 三	六 二	六 一〇	全 上	第三回便
	七 二	七 二	六 三〇	六 二六	六 二四	六 二四	六 二三	六 二一	全 上	第四回便
	七 一四	七 一三	七 二一	七 一八	七 一六	七 一六	七 一五	七 一三	全 上	第五回便
								七 一五	全 上	第六回便

0614

軍需局



第一課



軍務局長



第二課長



局長



大正十年

軍務局長

第三水島隊司令官宛

電報

暗號

五月三日 午後三時五分 發電済

海軍省より曲尾商務省へ囑託せし北樺太地質調査班
中亞港行方及人員三和任員二人夫四四八ノハ行方及
方長一和任員一人夫二二及之要急糧食品若干ナリ

右六月十日頃中樞に致し了り致度之付テハ中樞ヨリ
亞港迄多摩丸廿日以後ハ於テ亞港ヨリハハ行方
迄務力ヲ便テ輸送方可然ハ取計ヲ得度都合



0615

至急知事也

地質調査現五ヶ所中一ヶ所ニ三ヶ所ニ採石場あり

赴大(大信丸便)ヲ採用ス

初四五現ニ其構大西海岸一赴ク為多世丸且福勢

丸便ヲ西ヤス 構大水道ニ航路標識ナリモ最狭

部水路ノ中一運(吃水一六呎中一五呎)大隆

側ニ此處目標リル可地物全ク不明(溝)一系

九時一為勢丸ノ通航ニの能ナリ

海軍 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

0616

經理局

軍務局

軍務局

福勢丸機密第一八號

特設運送船福勢丸第一回輸送報告

十月二日報告

月日	自四、三〇	自五、七	自五、八	自九、〇	自九、一	自九、二	自九、三	自九、四	自九、五	自九、六
曜地名	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
搭載	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀	横須賀
供給	自 M	自 M	自 M	自 M	自 M	自 M	自 M	自 M	自 M	自 M
記事	各種機密手帳	各種機密手帳	各種機密手帳	各種機密手帳	各種機密手帳	各種機密手帳	各種機密手帳	各種機密手帳	各種機密手帳	各種機密手帳
時間	6-10 AM 6-10 AM	6-10 AM 6-10 AM	6-10 AM 6-10 AM	6-10 AM 6-10 AM	6-10 AM 6-10 AM	6-10 AM 6-10 AM	6-10 AM 6-10 AM	6-10 AM 6-10 AM	6-10 AM 6-10 AM	6-10 AM 6-10 AM
備註	午後四時五分入港	午後四時五分入港	午後四時五分入港	午後四時五分入港	午後四時五分入港	午後四時五分入港	午後四時五分入港	午後四時五分入港	午後四時五分入港	午後四時五分入港

經理局 10.6.17 接受

10.6.17 受取

0617

二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七
日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火
〃	〃	〃	〃	瀬 港	船 中	〃	〃	泥 港	〃	亞 港	〃	船 中
二種 煉炭 百トン				二種 加炭 八トン			二種 煉炭 三三トン 清水 二五トン	二種 加炭 八トン				
4PM. 4:30PM.			6-0AM. 7-11AM.				0-0PM 4-30AM 7-20AM. 7-0PM 11-50AM 11-30PM.					
若葉 二俵			午後七時五分入港 午後九時五分入港				午後七時五分入港 午後九時五分入港 午後十一時五分入港 午後二時五分入港 午後四時五分入港 午後六時五分入港 午後八時五分入港 午後十時五分入港 午後十二時五分入港 午後二時五分入港 午後四時五分入港 午後六時五分入港 午後八時五分入港 午後十時五分入港 午後十二時五分入港					

0618

海軍								残	計	六、一	三、一	三、〇			
										水	火	月			
										(五)月(五日)	"	"	"		
										二種類炭 本〇〇ト 清和炭 四〇二ト 清和炭 四二六ト 水 八五ト		二種類炭 本〇九ト 清和炭 九一ト 水 二〇ト A+A 2.0AM		二種類炭 本〇九ト 清和炭 九一ト 水 二〇ト A+A 2.0AM	
										二種類炭 五〇三ト 清和炭 二四〇ト 水 七五ト 本船消費 一六五ト 清和炭 二六ト			二種類炭 一〇〇ト 水 五ト A+A 2.0AM		
														午前六時開始 午前八時終了 午前七時開始 午後二時終了 午後七時開始 午後九時終了	

終

0619

人事局長

軍務局長

第二課長

第一課長

局員

次官
供覽

大正十年六月

日軍務局長

軍需局長

横鎮參謀長宛

六月十八日起
月 日 時

經理局長

特設運送船大信丸行動ニ關スル件

五月三十日附官房機密第八五一號ノ三ニ依リ特

設運送船大信丸徵備期間ハ内地北樺太間一

行動限リト豫定サレ居候處右ハ引續キ左記要

領ニ依リ第二次行動ニ從事セシメラルルコト相成

候條決了知ノ上可然御取計ヲ得度

右依命申進ス

官ヲ大信丸第二次行動終了ノ上ハ横須賀ヲ經テ

軍

軍

船籍

船籍
船上

0620

大阪に到り解備せしメサルル豫定ニ候

記

一、便乘者其他搭載物件

小樽、於多海軍省北樺太油田調査班(北樺太)

約六十名乗船糧食品若干搭載

發動機附測量艇及傳馬船各一隻(主ルニテ小樽送)

搭載

測量艇及傳馬船ハ七月中旬迄ニウクルト

ニ到着シ得ルハ令所ニ其ノ以後ナレハキヤク

ル瀉ニ輸送ノコト

二、行動概要

準備完成次第小樽發工ハビ瀉入口、ウクルト瀉入口、

キヤク瀉入口及又イスキ瀉入口ヲ經テ小樽帰著ノ豫定

抜出納

0621

原

大正十年六月

日軍務局長

第三水雷隊司令官宛

特設運送船大信丸行毎二開云々

本件、拜一別紙(通)横須賀鎮守府参謀長、

依命申進致管候様知相成度

右通 謹言

(別紙 葉添)

〆

海軍 陸海軍第十三行保城

〆

0622

海軍

海軍功報一覽

上記推創業用トシテ北原信之丞附

現地後 七月中旬迄ニ至ル令ニ

ウルクト

又次後ト云フ

キヤツル入口

三ノ川海云 (北原信之丞) 投所内藤梅吉附見 (コトヒラシ)

海軍功報



横道中葉十一行部紙

(納林小)

0623

秘

紙 郵 案 起

大正十年五月十八日起案

起案者

六月六日發付

發付掛

捺印

發付後起

案者捺印

案者捺印

案者捺印

案者捺印

軍務局長

副官

第一課長

第二課長

次官

參事官

局員

人事局長

第一課長

艦政本部長

總務部長

軍需局長

第四部長

經理局長

第三課長

水路部長

第一課長

第二課長

大正十年五月三十日大臣

橫濱鎮長官宛

其府所管船舶徵備件
所屬特設運送船下記汽

軍令	水路	艦政	教育	兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
														受月日發月日

0624

10.8.23 四

10.5.23 受

10.5.24 受

10.5.24 受

10.5.19 受

10.5.20 受

10.5.20 受

船ヲ徵傭シ其地ニ回航セシム該船ハ雜用船
トシテ使用ノストニ取計フヘシ
右訓令ス

大信丸

(大政商船株式會社)

記

第五一號

大正十年六月六日大臣

陸軍大臣

大正拾年六月六日 發布

汽船徵傭ノ件
今般左記汽船ヲ當省ニ於テ徵傭致候條御

0625

了知相成度
右通牒ス

大信丸 託

大阪高船株式會社

機密第一
五十一號

大正十年五月二十一日 次官

大正拾年五月參拾日 發布濟

大阪高船會社社長宛

汽船徵傭ノ件

今般貴社汽船大信丸ヲ當省ニ於テ徵傭
可致候條至急橫須賀軍港ニ回航シ人々鎮守
府司令長官ノ命ヲ受テシメスレ度
右通牒ス

終

終

件

0626

八五一號

大正十年五月二十日 次官

大正十年五月二十日發布

橫鎮長官宛

特設運送船行動ニ關スル件

官房機密第八五一號訓令特設運送船大

信丸ニ關シテハ左記ニ依リ可然御處理相成度

右依命申進ス

追テ大信丸ハ六月三日頃迄ニ横須賀軍

港ニ回航ノ筈ニ候

記

一、徵傭期間

北樺太内地間一行動限リノ豫定

明治御國

0627

既於以前
付予三項高階
一、半、職裝

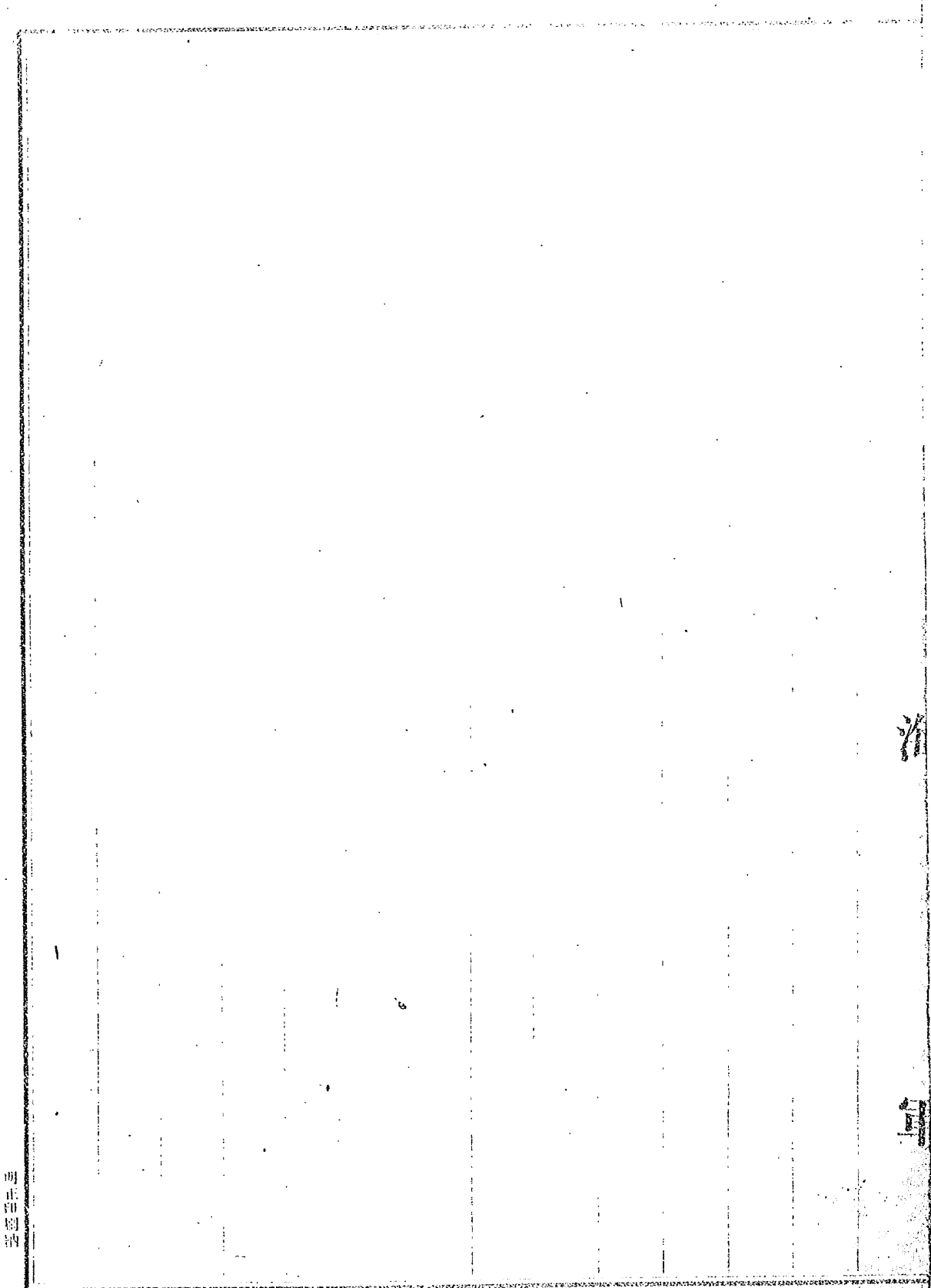
二、搭載物件

官房檢査
方八五二號三

三、行動概要

人員約百人ヲ收容シ得ル一時
的設備ノ外特ニ職装ヲ要セズ
横須賀ニ於テ測量艇(公稱第
二二七二號令第二〇七八號)搭載及
所屬ニ於テ雜貨若シ
判任官約
人員人夫約補人乗舩其他糧食
雜貨類若干搭載ノ豫定
準備完整次第横須賀及
回航北樺太行人員帶品搭載
又イカ、キリル涼石及
歸著ノ豫定
經由

(終)



明治
印刷
局

1/1

1/1

0629

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

軍務局

此見

大正十五年八月 軍務局

海軍 第百三十三号

一、北樺太方面地質調査班輸送ノ為一回限リ特設運送船

ヲ徴傭スル要アリ

二、右徴傭船ハ別紙軍需局案十年度地質調査班乗

船豫定ニ應ジ得ル如ク目下交渉中ナモ尚多少ノ時

日ヲ要スルニ付先ツ以テ必要ナル訓令事項ヲ起草スルコ

トトシテ徴傭船名ハ決定次第後ヨリ記入ス

三、徴傭船諸經費ハ辨天丸及神護丸用ノモノヨリ支出

ノコト

四、貸其測量艇ニ對シテハ北辰會ノ貸其ノモノ同様油

田調査費中ヨリ代船ヲ建造スルコト

（印）

船上

0630

分一
分二

分一
分二

海軍

<p>十年交地質調査班(軍)報告書 (海軍)報告書</p>	<p>後 局 便乗船</p>	<p>小樽 又イカ 六二五 官舎一 別荘二 人夫 四 船員若干 米九〇俵 味噌十五樽 船員一五俵 醬油五樽</p>	<p>又イカ 六二〇 六二五 別荘一 人夫 三 (六、半載)</p>	<p>小樽 六二〇 六二五 官舎三 別荘二 人夫 四 米九〇俵 味噌一五俵 船員若干 醬油五樽 (六、半載)</p>	<p>函館 六二〇 六二五 官舎一 別荘一 人夫 三 (六、半載)</p>	<p>函館 六二〇 六二五 官舎一 別荘一 人夫 三 (六、半載)</p>	<p>函館 六二〇 六二五 官舎一 別荘一 人夫 三 (六、半載)</p>	<p>函館 六二〇 六二五 官舎一 別荘一 人夫 三 (六、半載)</p>	<p>函館 六二〇 六二五 官舎一 別荘一 人夫 三 (六、半載)</p>	<p>教員、予定、書記、事務員等</p>
-----------------------------------	--------------------	---	--	--	---	---	---	---	---	----------------------

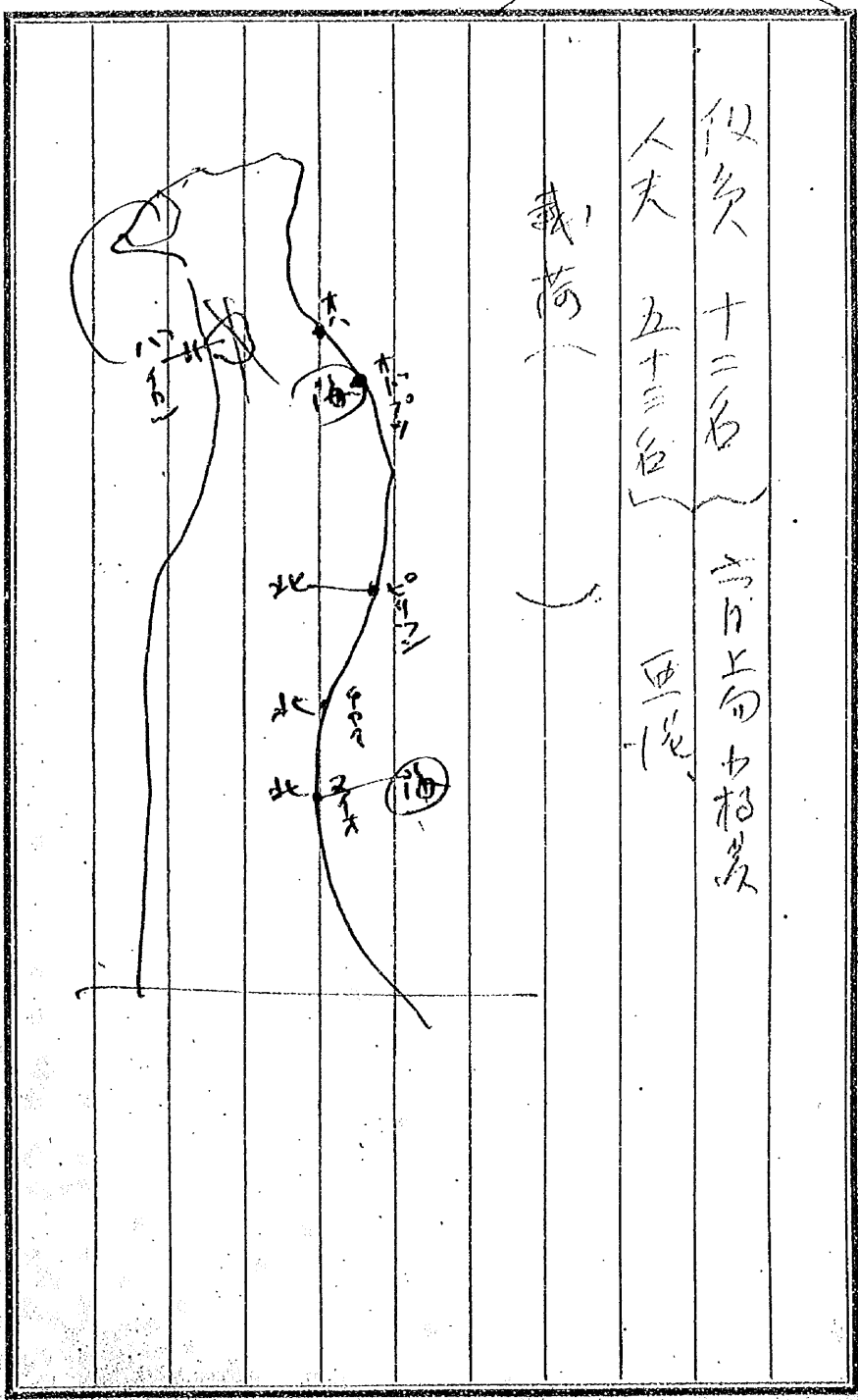
海軍

(小 林 納)

横濱中環十一行紙紙

0631

三菱
洞
久



役久 十三名
 人夫 五十三名
 裁荷
 魚
 三月上旬 中相殿

三菱
 甲藤石
 一〇、五、一七

海
 軍

模造中葉十一行紙

(納林小)

0632

九年八月十七日

官房秘密第一〇九五號

北樺太油田差用調査之調査件

万石、由農内務、外務、陸軍及び海軍

第三次

地質調査は、大正十年秋期迄、(内)に於て、先づ、(中)に於て、(外)に於て、

上述之由、(中)に於て、(外)に於て、

模造中葉十一行紙

海軍

(小 林 稿)

0633

第一師団大佐行勅予定機恩地通

大新丸行勅予定

着	地	月	日
山	山	六	一三
山	山	六	一六
山	山	六	一九
山	山	六	二二
山	山	六	二五

又イヌキ一海入口
 又イヌキ一海入口
 又イヌキ一海入口
 又イヌキ一海入口
 又イヌキ一海入口

大新丸行勅予定
 大新丸行勅予定
 大新丸行勅予定
 大新丸行勅予定
 大新丸行勅予定

機造半葉十一行紙

海軍

(小 林 清)

0634

	大新丸 第二回 行船 予定
着	着
地名	地名
月	月
日	日
七 五	七 九
小 橋	不 正 港 入 口
七 二	七 二
不 正 港 入 口	不 正 港 入 口
七 二	七 二
七 一 四	七 一 五
不 正 港 入 口	不 正 港 入 口
七 一 八	七 一 八
不 正 港 入 口	不 正 港 入 口
七 二 一	七 二 四 (二七六) 27
不 正 港 入 口	不 正 港 入 口

海
軍

8-
9-
10-51格(人員番号)

横濱小隊十一行野紙

(小 格)

0635

大信

友信

3.
2.

大信九七月

<p>中二班行動</p> <p>可一五二八</p> <p>軍部常備隊</p>	<p>海軍名直之七油田調査班五班</p>	<p>一班 二十二名</p> <p>糧食帶品約 三十七</p>	<p>合計 百十名</p> <p>百廿七</p>	<p>外一信馬形 (二隻) 発動板杖一隻</p>	<p>期首</p>	<p>十指表 六月下旬</p>	<p>陸上地上云 千中イ字</p> <p>工ハロ</p> <p>内ルヲト</p>	
--	----------------------	---------------------------------	--------------------------	--------------------------	-----------	-----------------	--	--

海軍

(繪林小)

機造中葉十一行野紙

0636

軍務局

徵備船大信丸四日授受了了又

第二課
第一課

大正十年六月四日午後

海軍大臣
軍令部長

一時五分
二時五十分
横須賀鎮守府長官

由司令官

軍務局接獲
10. 6. 4

船舖上

0637

海軍

海軍令第十三号

内令第二百十六號

右特設運送船トシ横須賀鎮守府所管ト定ム

汽船 大信丸

特設運送船 大信丸

◎右雜用船トシ横須賀鎮守府所屬ト定ム

大正十年六月四日

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

百八十二

0638

軍第三四三號

軍務局長

第二課長

職員

軍務局長

海軍

海軍中隊十三行隊

横鎮分隊長

第三水島隊司令官 宛

室戸特務艇長

大正十一年

七月四日起
七月四日發付濟

特設運送船大信丸件

大信丸救助之云々右通大改商船株式會社長

海軍大臣宛電報有之候

右通船長

大記

陸

陸軍省

船七

0639

軍務局



電報着信紙

局 着		局		發		名氏所居人信受
取扱者	受信	付午後	付午前	第二九	トミジマ	カトウ カトウ カトウ
		午後	午前	七月	局	
		分	分	日	八官報	
定指						番着
ヤ						信
ヘイモヤセ						紙
シロツギ						第
カカタ						四
カカタ						六
カカタ						號
カカタ						番
カカタ						信
カカタ						五
カカタ						軍務局接受
カカタ						印
カカタ						署
カカタ						開
カカタ						日
カカタ						月
カカタ						年
カカタ						日
カカタ						時
カカタ						分
カカタ						秒

加藤... 大坂...

カカタ... 大坂... 加藤...

番着... 第四六號... 軍務局接受

0640

軍務局長

大正十年六月廿九日

午前 十時三十分

局發

發信者 下坂高次郎

振啓也郎

受信者 軍務局長

加務局接頭

第二課長



敬請此下信丸曹維ニ付多大ノ援助
ヲ成リテシテ也此際ニテ
成功セリ謹テ此
申上ス

海軍 陸軍省第十三行隊

0641

軍務局

大正十年六月十九日午後九時五十分
二十日午前一時
海軍省着

海軍大臣

樺太廳長官

0642

特設海軍運送船大信丸(一二三八七)北樺太北辰
會行途中十八日午後八時三十分管下散江郡散
江村チカ沖約一哩ニテ暗礁ニ乗上ケ前方傾斜
浸水甚クシ船底大破、模様アリ
乗客角田軍參謀、農商務技師投手等九名(内
外人一名)人夫百十三名船員四十六名無事救助ス
貨物二千七百六十個ニテ船艙内、器具類浸水セテ外
無事、見込
救助船(大阪商船會社)ニ手配ス



軍務局

海軍大臣

海軍大臣

大正十年六月十九日午前六時五十分散江着

大信丸船長

天候、為散江、寄港、途次昨夜八時半其、

沖合、暗礁、坐礁、浸水甚、引却出來、

救難、船頼、人命無事

0643

横須賀鎮守府電話

(大正十年六月二十九日午後五時四十五分受)

0644

大信丸遭難ニ関シ左記ノ通譯三木雷戰隊司令官ノ
發電濟ニ付御届ス

左記

本府所屬徴信船大信丸六月十五日小樽發樺太
東岸、又イオニ向テ航行中天候、為多來加灣散
江ニ寄港、途次十八日午後八時半其沖合坐礁
浸水甚クシク引却出來ス目下人命無事ナルモ至急
救助ヲ要スルニ付救助方御配慮ヲ乞フ同船ハ北
長會員及農商務省員約百二十名便乗中

大信丸船長へハ

第三水雷戦隊司令官へ至急救助船派遣ヲ依頼ス
其ノ後、模様刻々電報セヨ第三水雷戦隊ト連絡
在亞港海軍臨時防備隊ニ取ラレ度

附記

大坂高船會社へ大信丸船長ヨリ通知ラトト思
ルニ付鎮守府ヨリハ通知セス必要ナラハ海軍省ヨリ
通知アリ度

0645

北樺太の良島より北鎮長及び一電報
（百六二〇）午前十時

特設海軍運送船大信丸（一二三八ト）北樺太、
北辰会の途中十八日午後八時三十分着下散江
村岸が沖の浪に暗礁に業上へ前方傾斜、浸
水甚しく船底大破、撲滅あり、業者、南田海軍
参謀、農務省技師、技手九名（内海軍一人）人
支百十名、船員四十名、気事、救助、若柳、千
七百の千トに二二テ、船、機、械、類、浸、水、外
多事、貝、入、救助、船、派遣、方、ハ、船、大、坂、島、船、入
手配ス

ノ

海軍省

0646

海軍局

大正十年六月二十日

大信丸船長

海軍大臣

其後天候風、為新電、外船体ニ異状ナシ
 一二番船全部浸水者ニ北辰會機機ニ、外
 大部カ陸揚濟
 坐礁場所、北緯四十八度五十八分東經百四十
 四度十七分（千賀岬沖合）



0647

軍務局

機内

第二課

機内

海軍大臣

機内

機内

大正十年六月

二十一日午後四時
二十二日午前

分令散
分令海軍省着

大信丸

軍務局控

10. 青 2. 面

備上
備下

0648

其後引續キ天候平穩前電ノ外船体異状ナシ